

## 「聴覚障害児の教育課程」

教育学部 立入 哉

### 1. 授業の目的と内容

本講義は、聴覚障害児教育の大枠を知り、もって聾学校教員としての資質を備えられることを目的とした授業である。具体的には聴覚障害児教育の歴史、教育方法の変遷、聾学校教育の特徴、幼児児童生徒の各発達期順に教育課程論を展開している。

平成29年度、受講学生は30名であった。

### 2. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

#### 1) 愛媛県の聾教育の開祖者について

今年度、愛媛県の盲聾教育の開祖者（森盲天外）について、時間を設けて紹介する時間を設けた。ひめぎんホール近くにある森盲天外の句碑をGoogle Mapを用いて、授業時間中に場所を探索することを試みた。また、今年度から、森盲天外の道後温泉近くの句碑についても紹介した。森についての手元資料が少なく、教材化するためのデータが整っていない。学生が調査しうる資料が存在するならばより良い教材化ができると思われた。

#### 2) 地域の聾学校のデータを紹介する試み

従来は、「全国では・・・」という全国データの紹介を中心にしていたが、今年度は、意識して「愛媛県では」あるいは「四国では」というデータを資料に加えるよう努力した。障害者雇用促進法に関して、愛媛県の労働局が発表している資料を用い、身近な公的機関や企業等の雇用率を調べることができた。

### 3. DPの対応／合理的配慮

#### 1) 授業の評価に関して

聴覚障害児教育に関する基礎的な段階（免許法必修科目の最初の科目）であるため、知識・理解を求める内容が多い。このため、3A：教育的活動に取り組むための技能が1.29（前年比 -0.71）が極めて高く、次いで、4A：自己の学習課題の明確化が1.43と、高

値であった。5A：専門職業人としての使命/責任感、1B：自分の専門分野の知識、5B：多世代に渡る対人人間形成能力の3項がいずれも1.57、2A：教育の現代的課題での対応方法、4B：理論と実践を結ぶ主体的学習がいずれも1.71であった。

#### 2) 授業時間外学習の促進

2年前から、Moodleを利用し、関連する映像番組を視聴できるようにした。昨年度は、視聴端末によって、視聴できた学生とできなかった学生がいたが、今年度からMoodle3になり、動画配信に対応したため、動画の視聴ができない学生がいなかった。

昨年度は、Moodleの「完了」マークが付いている状況から、学生の視聴率は低く、授業時間内に視聴への動機付けを高める必要があると考えた。このことへの今年度における対応は次章で紹介する。

#### 3) 授業進行上の合理的配慮

本講義には、①聴覚障害学生 2名、②アスペルガー症候群の学生 1名、③韓国人留学生 2名が受講した。また、④冬期、インフルエンザによる欠席者が多い時期は、授業を動画撮影し、Moodleで視聴できるようにした。

##### ①聴覚障害学生に対する配慮事項

可能な範囲で手話を併用して講義を行うよう試みたが、授業進行に頭を使うと手話がなござりになってしまうことが多かった。使用する映像（Moodle上の映像も含む）に字幕を付けた。時間の都合で1本の長時間映像（映画）には字幕が付けられなかったが、この映画の台本を取り寄せ、当該学生に提供した。

##### ②アスペルガー症候群の学生に対する配慮事項

当該学生からスライドの使用色について希望が出されたため、当該学生と打ち合わせし、すべてのスライドについて、モノクロを基本として、重要な箇所は囲む・アンダーラインとする、色を使う場合も1スライドに赤単色として授業で使用するスライドすべてを修正した。



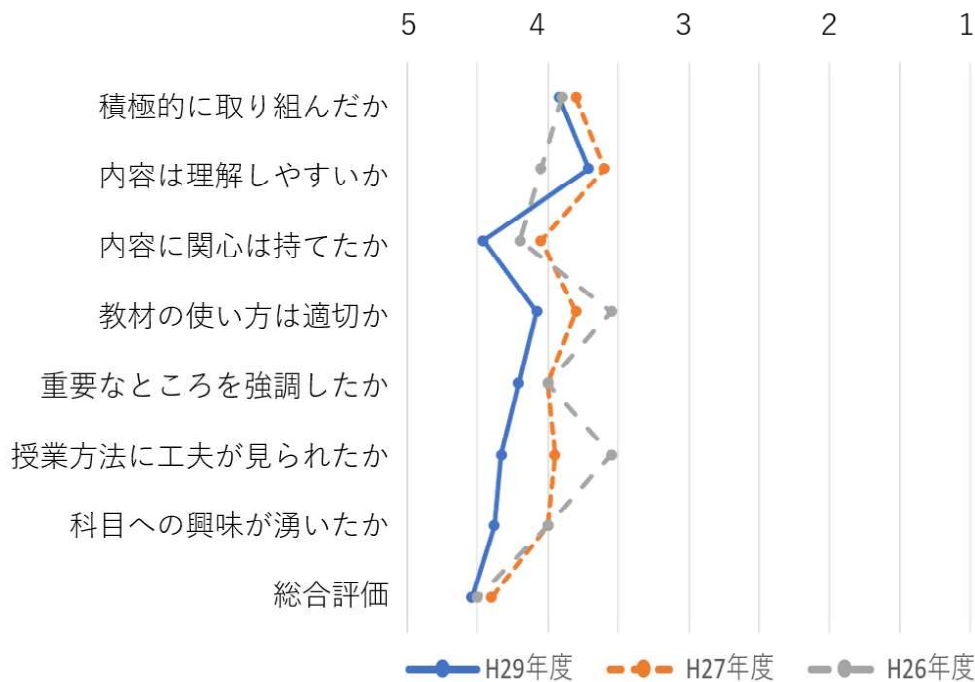


図5：授業評価（5がもっとも高い評価）

回授業前に行う小テストに出題をした。授業→「学習の手引き」による復習→小テストという循環（図2）により、学習の効果をより高めることができた。



図4：Moodle上の教材群

## 5. 独自アンケートによる効果の検討

### 1) 5選択肢による調査

ここ数年、同じ講義に対して、同じフォーマットを用いて独自の授業アンケートを行っている。この結果を図に示した（図5）。今年度、「学習の手引き」を作成したことで、Moodle上の教材を学生が活用でき、相乗効果があったと考える。結果、教材の使い方、重要な箇所の強調、授業方法の工夫、科目への興味といった評価ポイントで大きく評価が高まった。

### 2) 自由記述欄

自由記述として、下記の3点を調査した。①「学習の手引き」の効果、②「学習のてびき」を毎回、提出義務とするかどうか、③Moodleの学習効果、④その他の授業の向上点。

#### ①「学習の手引き」の効果

・講義のレジメを見て復習するだけでは小テストの点があまり取れなかったため、手引きは必要だと思う。

・学習の手引きは授業の復習として効果的に活用でき、大変良かった。良い刺激になった。

・手引きがあると、どこを勉強したら良いのか分からない悩みが解消され、重要なところが分かりやすく、学習しやすかった。

・手引きがあることで、復習がしやすく、Moodleの動画をどういった観点で見れば良いかの参考にもなったので良かった。

・学習の手引きを見て、調べても、その内容が小テストに全く出題されず悲しかった。

・授業を欠席した際に、押さえておく良いところなどを把握することができた。

・膨大なスライド資料から情報がピックアップされてまとめられていたので、勉強の補助としてとても役立った。

## ②「学習のてびき」を毎回、提出義務とするかどうか

・手引きの提出は必要ないと思うが、解答が欲しかった。

・学習の手引きの模範解答が欲しい（次の授業の時に）

・学習の手引きの提出を求められれば、学習するし、動画も見ると思う

・私は文章ではなく、動画を見ながら、メモのように単語で書いたり、斜めに書いたり提出できるようには書けないので、手引きの提出はない方がいいです。

・動画資料が多く、その週内に見られなかった場合、その映像に関する回答をして提出するのは難しい。

## ③Moodleの学習効果

・Moodleの動画は見やすいので良かった。

・Moodleの欠席者用の授業映像がすごく良かった。

・授業に出席して、家に帰ってから、もう一度、授業の映像を見ながら、学習の手引きをすることで、理解が深まったし、興味が湧く記事を見つけることができた。

・Moodleの動画で講義で習った内容を実話や映像で見ることができ、よりわかりやすく学習できた。

・Moodleの映像は楽しく見ることができ、関心・興味を深めることになった。土日のMy映画鑑賞にしていた。

・Moodleの活用は良いのだが、量が多く、長い時間の確保が難しい。しかし、全て見たいという気持ちもある。設定の段階で、再生速度が変更できるようになっていると、良いかと思う。

・Moodleの映像は小テストの内容でもあったし、復習やテスト対策に使えた。また、授業に欠席した際、とても助

かった。

・授業内容に関するビデオを見ることで、自分の中の知識が更に広がり、良い機会になったと思います。

・Moodleの動画を見て、考えることができました。

・Moodleの映像は自分では見つけることができないビデオだと思うので、勉強になりました。

・Moodleの要視聴の映像は見ていましたが、そう書かれていないビデオを見たくても、時間がなく、見られないことが多いので、先生のおすすめ度合いがわかれば良いと思いました。

・Moodleで授業で見た動画の続きを見ることができたり、欠席した回の授業を見ることができたのはすごく良かった。

・Moodleの映画やまんがは気軽に学習に取り組みことができ、興味を深められる良い機会になったと思う。

・自分が出席した回でもアップされている授業映像を見て勉強ができた。

## ④その他の授業の向上点。

・少し授業のペースが速かったかなと思います。

・一つ一つの内容をもっと丁寧に勉強したかった。

・小テストがあることで勉強をする機会にはなるが、その時々短期記憶になってしまいがちで、なんだか余り覚えておけない気がした。

・動画教材が多く、すべてを見るには少し時間が足りないように感じた。

・スライドがカラーの方が分かりやすいものもあり、配付資料をカラー印刷にして欲しい。

・スライド資料、Moodleのユニット、小テストや手引きのタイトル（小見出し、数字など）を揃えて欲しい。

## 6. 総合的考察

本講義「聴覚障害児の教育課程」について、90分×15講義でまとめ上げることは極めて難しい。今年度、「学習の手引き」を新たに作成することで、各回の要点を押さえることと、授業時間では足りない内容をMoodleで補うこと、Moodle上の教材を効果的に使用することができた。これらの結果、授業評価はH27より大きく向上した。中でも授業を欠席した学生に対し、授業の動画を配信したことが好評だった。学生の学ぶ意欲の向上にもつながったと思う。